



松代大本営舞鶴山地下壕跡（長野市松代町）

## 第4回企画展テーマ決定！ 「本土決戦と登戸研究所」

2013年11月20日（水）～  
2014年3月9日（土）

登戸研究所資料館では、今秋の企画展の開催が決定いたしました。第4回目となる今回のテーマは「本土決戦と登戸研究所」とし、本土決戦体制下の登戸研究所の役割の変容を通じて、本土決戦準備の実態に迫ります。

今回は生田キャンパスの登戸研究所資料館内だけでなく、中野キャンパスでも関連展示を行う予定です。今年度の4月に誕生した中野キャンパスは、戦前には「スパイ」養成所であった「陸軍中野学校」が存在していた場所ということをご存知でしょうか。

### 登戸研究所資料館も会場になります！

**731部隊展 2013 実行委員会 主催**  
**パネル展 「731部隊展 2013」**

1993年、全国61カ所で23万人の見学者を集め、「日本ジャーナリスト会議（JCJ）特別賞」受賞した「731部隊展」が20年ぶりに開催！明治大学にやっけてまいります。戦争の実態を風化させることなく平和の礎を継承するため、731部隊の実態を伝えます。  
会場/会期：

- ①生田キャンパス 平和教育登戸研究所資料館  
※パネル展示のみ、無料  
第一期/2013年8月7日（水）～8月24日（土）  
第二期/ // 9月4日（水）～10月26日（土）  
（資料館休館日を除く、10:00～16:00）
- ②駿河台キャンパス リバティタワー 13F 1135教室  
※「731部隊展」の再構成、模型・実物展示あり、  
資料代1,000円（記念シンポジウム招待券付）  
2013年8月29日（木）～31日（土）  
（29日13:00～20:30、30日10:00～20:30、

か。登戸研究所は陸軍の技術研究所の中では唯一、中野学校とのつながりがありました。本土決戦体制下においては、より一層その関係が強化されたとも考えられ、登戸研究所の敗戦直前の疎開先である長野県伊那地方への取材をもとにその様子を明らかにしてまいります。奇しくも、現在では登戸研究所、中野学校、共にその跡地が同じ明治大学のキャンパスとなっています。時間を越えて、ゆかりのある二つの会場での展示を是非ご覧ください。詳細は次号の資料館だよりでご紹介いたします。



31日10:00～18:30)

主催者連絡先：03-3354-2555（ピープルズ法律事務所）

### 関連イベント

「731部隊展開催20周年記念シンポジウム」  
日時：2013年9月1日（日）13:00～16:30  
会場：駿河台キャンパス リバティタワー 1F  
1101教室  
資料代：1,000円（駿河台キャンパス会場展示  
見学者は無料）

### —今号の注目記事—

- ・「元登戸研究所勤務者が語る陸軍秘密戦研究所」  
第一回〈登戸研究所での勤務内容①〉→ p.2
- ・「弾薬庫内部公開開始！」→ p.3

▶▶▶ facebook, twitter 始めました！

 <https://www.facebook.com/Noboritoshiryoukan>

 [https://twitter.com/meiji\\_noborito](https://twitter.com/meiji_noborito)

# 「元登戸研究所勤務者が語る陸軍秘密戦研究所」 第一回 〈登戸研究所での勤務内容①〉

前号でお伝えしたとおり、今年の3月9日に行われた証言会の報告を今号より連載いたします。※カッコ内は資料館で書き加えた内容です。

## 〈登戸研究所での勤務内容〉

— 小川昭治様（第二科第一班ご勤務） —

私が所属した班は、伴大尉（昭和17年4月時点）が班長の班。第10研という建物を使っていた。現資料館の建物とほぼ同じ間取りのコンクリートの建物。やらされた仕事は、風船爆弾の一部の手伝い。積み込まれる爆弾の研究、製作、実験。なかでも私がやったのは、爆弾にとりつける信管の研究。時限爆弾の信管なので、時限的に作動する内容のもの。（この信管の大きさは）万年筆ぐらいの大きさで、硫酸銅を溶かした液体をアンプルに入れてこの中に仕込んだ。（また、）食用に使う缶詰を偽装し、これに時限爆弾の信管を取り付けて、時限的に爆発させる実験を行った。

昭和19年11月に、焼夷剤爆発実験を一宮海岸の海岸線で行った。一宮海岸に1カ月ほど常駐。風船爆弾浮揚の実験もやった。我々は風船を上げる手伝い、綱をひいて引っ張る手伝いをした。実際の風船爆弾は我々は見ていない。いつあげたのか、夜中にあげたのか、我々は見ていなかったなのでその辺は詳しくはわからない。（資料館注：一宮は風船爆弾放球地でもありましたが、実験と放球の管轄は異なり、実験は登戸研究所が管轄していました。小川様は、この一宮に設置した登研分室にて実験を行ったようです。）

— 栗山清様（第二科第四班ご勤務） —

四班はどんなことをやっていたのかというと、班長は黒田という中尉。この方は軍医、お医者さん。その上に高橋さんという大尉。この人も軍医で、登戸研究所の全職員の健康関係をこの二人の先生が全部やっていた。その一方、

黒田さんは四班の班長として色々やっていた。研究内容については何をやっているか（当時は）わからなかった。でも細菌かなんかをいじっているってことはわかっていた。終わったら全部を消毒してくださってと言われるからその通りにやっているだけ。研究資料としては、ハツカネズミ、モルモット、ウサギ、犬がだいたい多かった。中には一部ヒキガエル、これも使った。それを全部解剖して、心臓に糸で結んで記録装置でもって記録。（実験動物）に対して毒薬、細菌を植え付けて、どうなるのか、変化はどうなるのか。急に効くのか、徐々に効くかをみていた。細菌類っていうのは目に見えない非常に怖いものなので、それを取り扱っている場所というのは現資料館の第三展示室。ここで半年間。ただここだとどうしても狭いということで、現資料館の真ん前に6部屋の木造建築をつくった。そのうち一部屋はまわりが全部タイル貼りの手術室。ここには動物を手術する台があった。ここはドアがあって入口にまたカーテンがあるという非常に物々しい部屋。他の部屋は小さくて、一つは更衣室、一つはトイレみたいなやつ、実験室が1、2部屋。あとは化学実験室。ここにほとんどの薬品なんかが入っていた。

次回は第三科にご勤務されていた大久保様、土本様のお話を掲載いたします。（塚本記）

昭和十八年二月六日		右 認 可 ス					陸 軍			
		三十四號會 (假名稱)					建 物 名 稱	現 定 外 電 燈 使 用 認 可 證		
		九 號 室 (實 驗 室)	八 號 室 (藥 理 室)	七 號 室 (生 理 室)	六 號 室 (病 理 室)	五 號 室 (手 術 室)	四 號 室 (準 備 室)	使 用 個 所	煙 光 (W)	個
		一〇〇 W	一〇〇 W	一〇〇 W	一〇〇 W	五〇〇 W (E)	一〇〇 W			一 個
										各 一 個
										二 個
										二 個
										二 個

庶務科長陸軍大佐草場幸喜

栗山氏のお話にあった「手術室」と思われる棟の記録（第三展示室展示『雑書綴』p.443より）

## シリーズ Q & A

# 第七回 ヒマラヤ杉並木はいつからあるの？

明治大学正門に入ってすぐ左側にヒマラヤ杉並木があります。ヒマラヤ杉は8本あり、今の図書館と杉並木の間に、1990年頃までは登戸研究所本館の建物が残っていました。



現在のヒマラヤ杉並木

ここに登戸研究所が設立されたのは1937年(昭和12年)、ちょうど日中戦争開始時でしたが、その前からヒマラヤ杉はあったと言われています。登戸研究所以前にあった「日本高等拓植学校」時代の写真からも杉並木の幼木らしきものが確認できます。

登戸研究所時代に撮影された写真でもこのヒマラヤ杉は確認できます。右側の写真は、1944年10月、ヒマラヤ杉並木付近で撮られた写真です。中央後方にヒマラヤ杉が育ってきてるのが分かります。そして前列中央、軍刀を手に持つ人物が昭和天皇の弟の三笠宮崇仁少佐で、この写真は三笠宮が登戸研究所を視察した時に撮影されました。



三笠宮崇仁少佐の登戸研究所への視察(伴和子氏寄贈)

ヒマラヤ杉並木は、まさに今も生きている歴史遺産といえるかもしれません。(森記)

## 新規資料紹介

3月に明和グラビア株式会社より、元登戸研究所第三科所属 故大島康弘氏所蔵資料 2038点(うち、489点は元第三科科长山本憲蔵氏旧蔵資料)の寄託を受けました。また6月には、狛江市役所より山本憲蔵氏宅に保管されていた資料 132点を借用しました。これらの中には、「秘」「極秘」と記された参謀本部作成資料、本人直筆のメモや原稿、登戸研究所が偽造した中国紙幣(登戸研究所製かどうかは定かではない)、今まで複製でしか確認できなかった偽造法幣工作の中国の拠点「田公館」の収支報告書の原本が含まれています。これら資料調査の成果を今後展示に反映していきますので、どうぞご期待ください。(塚本記)



明和グラビア寄託資料より「中国法幣」

## 「弾薬庫」内部公開開始!

資料館の裏手にある倉庫跡(通称「弾薬庫」)の公開が始まりました!この古色蒼然とした倉庫跡はこれまでフェンスの外からご覧いただくのみでしたが、ご希望の方へは資料館職員が付き添いの上で中までご案内できるようになりました。また、もう一つ第一校舎1号館裏手にも倉庫跡が現存しているのはご存知ですか。こちらはご案内が難しい場所にあるため、「知る人ぞ知る」倉庫跡となっていますが、こちら職員がご案内いたします。ご希望の方はどうぞお気軽に職員へお声掛けください。(椎名記)



(左上)「弾薬庫」外観  
(右上)「弾薬庫」内部  
(左下) 第一校舎1号館裏手の倉庫跡※内部は近日公開予定

## 資料館よりお知らせ

### 山田 朗 館長（明治大学文学部教授） 渡辺 賢二 先生（明治大学兼任講師）による 見学会

明治大学構内に残る登戸研究所史跡案内をしたあと、解説つきで資料館をご案内いたします。

山田 朗 館長 ガイド日

開催日：7月20日（土） / 8月17日（土） / 8月24日（土） /  
9月14日（土） / 9月21日（土）

渡辺 賢二 先生 ガイド日

開催日：7月13日（土） / 8月3日（土） / 8月31日（土） /  
9月7日（土）

集合場所：13時 明治大学生田キャンパス 中央校舎1階ロビー

13時：生田キャンパス内 登戸研究所史跡案内

13時半：DVD「蘇る登戸研究所」視聴，登戸研究所資料館見学

15時：解散（予定）

参加費：無料

《学外の方は事前予約をお願いいたします》

\*見学会当日の午前中まで受け付けます。

（詳細につきましては044-934-7993までお気軽にどうぞ!!!）

明治大学平和教育  
登戸研究所資料館 主催

## 見学会開催の お知らせ

### 夏季臨時休業休館日について

当資料館の夏季臨時休館日は8月10日（土）です。そのほかは通常開館しております（休館日は日曜日から火曜日）。

そろそろ夏休みに入りますので、お子様を連れていらっしゃる方も多いと思います。ご家族揃ってのご来館お待ちしております!!!!

### 濾過筒メンテナンスのおわびと 展示再開のお知らせ

第5展示室入ってすぐの「石井式濾水機濾過筒」メンテナンスに関してご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。7月10日（水）より展示を再開いたしました。

再展示となった濾過筒をぜひご覧ください！

7月11日現在の来館者人数は26,461名です。

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス TEL/FAX：044-934-7993

E-mail：naborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/naborito/index.html

twitter  : https://twitter.com/meiji\_naborito

facebook  : https://www.facebook.com/Naboritoshiryokan

### 《開館のご案内》

水曜日～土曜日 午前10時から午後4時  
入館料：無料

\*10名以上の団体予約を希望する場合は、原則、見学希望日の1か月前までにお電話またはメールにて事前にご予約をお願いします。

\*団体予約の場合は日曜日もご予約可能です。ご相談ください。ただし、予約状況などによりお断りすることもあります。ご了承ください。